

「しもすわ未来議会」での2つの提案から

若い世代からの提案に、町では実現に向け、関係機関が取り組みました。

いずみ湖のステージ設営 2011. 10. 11 未来議会で提案

下諏訪向陽高校2年 伊藤 了麻 さんの提案 (2011/広報12月号より)

いずみ湖公園について、もっと有効に活用できないか。合宿に来る学生たちに施設を活用してもらうことで利用が増えるのではないかと。また、文化活動の拠点として野外音楽堂を整備したうえ、「森の中の音楽祭」を開催するのはどうか。(現在 3年)



この提案により、「いずみ湖公園屋外ステージ設置事業」が始まりました。5月下旬から8月下旬の土曜・日曜、地元業者と町の小中・高校が参加。各校の児童会や生徒会中心に毎回30名から50名ほどが、作業工程の見学や実際にペンキ塗りなどを行いました。ステージのデザインも、子どもたちの提案をもとに検討されました。

このことは子どもたちに、自分たちが町づくりの一端を担ったことへの喜びと誇らしさを与えてくれたことと思います。そしてそれは、今後の町民としての生き方に、大きな影響を与えてくれるものと期待するのです。

しもすわガーデンプロジェクト 2012. 10. 9 未来議会で提案

下諏訪社中学校3年 宮下 海都 さんの提案 (2012/広報12月号より)

今、社中ではノースしもすわネットワークにご協力いただき、生徒会活動として「ヤシロガーデンプロジェクト」と言って、種から苗を育てその苗を校内ばかりでなく、町内のあちこちに配る活動をしています。2年前からの活動ですが、これを「シモスワガーデンプロジェクト」として、町全体の活動にしていきたい。学校の方で花の苗を育て、それを町中に広げていく方法をとったらどうでしょうか。花があるだけで、地元の人はもちろん、観光客にも楽しんでもらえる。町の緑化がさらに進み、気持ちよい町になっていくと思います。(現在 卒業)

この提案の実現に向けて、社中の小口校長先生の呼びかけで、11月16日に第1回しもすわGarden Project会議が開かれました。町内の小中高の学校、養護学校、役場の代表が文化センターに集まり、対話集を開きました。ここで話し合われた内容としては

- ① 花を飾る場所 ② 花の種類 ③ 各校の活動内容などです。

児童会や生徒会の活動や総合的な学習の時間の中で行い、校舎内外だけでなく、秋宮前の参道沿い、JR下諏訪駅前、万治の石仏への歩道、町役場周辺など、町内の各施設や主な道路などにも飾る予定とのこと。

新年度、みんなの願いがどのような形で実現され、町がどのように彩られるか楽しみです。



第1回しもすわGarden Project会議

前向きに謙虚に



教育委員長 高木 清知

春は路のとうが芽を出し、桜が満開になる時。体の奥底から自然と「力」がみなぎってきます。四月は躍動する季節です。また、進級、進学、新社会人としてのスタートや人事異動の時期でもあります。希望を胸に、早く環境に慣れ、進もうと輝いて見える人たちがいる一方で、人生設計をもう一度見つめ直そうとする人もいます。健康に自信のない人は、体力の回復を図ろうとするでしょう。

私もご多分にもれず、三年前から目の病気(白内障・網膜剥離)や胃潰瘍等にかかってしま、「何をやるにも健康第一」だと思っていた私は、大変なシヨクでした。体は確実に衰えていきます。これを機会に、還暦を超えた自分の新しい生き方をしたいと思いました。そして、それは六十歳になったら背伸びをせず、六十歳なりの生き方をすることだと考えるようになりました。

「浮利を追わず」と言う言葉があります。「攫千金を目的として、企業や一般個人まで投機に走った時代がありました。心の背中を見て歩く」ことで、社会に順応してきた時代でした。今は、インターネットによる情報の氾濫で、家族間・人間同士のコミュニケーション不足が起き、「相手を思いやる気持ち」や「人の痛み」が分からない子どもが多くなっているように思います。親は「ぶれない気持ち」を持って子どもに接し、「感謝の気持ち」「思いやりの気持ち」を大切に、子どもの成長を見守ってほしいと思います。



春の使者 フクジュソウ

情的には、預金をしたうえでの蓄えとは、その価値において大きな開きがあります。現在は、先が見えない時代と言われていますが、前向きな気持ちで新しいことに挑戦し、着実に一歩ずつ、夢の実現に向かって進んでほしいと思います。そして、起こる問題の解決には、浮ついた気持ちでなく冷静に対応し、謙虚な気持ちを持つことが大事です。浅学菲才の身の故、座右の銘という程のものは持ち合わせていませんが、折りに触れて思い起こす言葉です。